

地域の農業を守りたい



村山市 株式会社アグリラボ



ほ場整備事業をきっかけに法人化

村山市の農業法人「株式会社 アグリラボ」は地域の農家が年々減少する中、積極的に農地を受け入れて規模拡大している。もともとは家族で農業をしていたが、経営規模を拡大させることもに、地区外からの人手も確保するために、平成31年1月に法人化した。現在は、社員7名とパート6名程が勤務している。西郷名取地区のほ場整備事業(※1)をきっかけに、高収益作物の面積も増やし、現在は水稲34ha、にんじん3ha、きゅうり0.7ha、なすなどの野菜の苗7万株及び飼料用米を栽培している。さらに、鉄コーティングした種もみの直播栽培や自動給水栓の試験的導入など稲作の先進的な取り組みにも挑戦している。



事業の効果を実感

ほ場整備事業では、地下かんがい施設(※2)が整備された。株式会社アグリラボ代表の柴田さんによると、地下かんがいは効率的に水やりができるため、特に畑作に有効とのこと。また、田んぼが大きくなったことによって、大型機械を導入でき省力化につながった。さらなる規模拡大や、限りある水を有効活用するために、農地の大区画化や水路のパイプライン化が地域により普及することを柴田さんたちは待望んでいる。



(※1)田畑を大きな区画に整備するなど、大型機械の利用を可能にし、生産性の向上などを図る事業 (※2)埋設管によって地下から作物へ水を供給する施設

園芸作物への取り組み

きゅうり栽培は、柴田さんの先代から行っており、ノウハウを引き継いで栽培している。地下かんがいは、特にきゅうり栽培への効果が大きいとのこと。

にんじん栽培は、ほ場整備事業を機に5、6年前に始めた。きゅうりはほとんどが手作業なのに対し、にんじんは箱詰め以外の播種、除草、収穫、選果の作業を機械化できるのが利点である。

それぞれ特色ある作物を組み合わせながら、先を見据えた農業に取り組んでいる。



地域を守っていく

株式会社アグリラボでは、「一度荒れてしまった農地をもとに戻すのは難しい。たとえ条件が悪い田でも先人たちが代々守ってきた大切な農地である。」という思いで、地域の離農者から農地管理の依頼があれば、優劣をつけずに受け入れている。

人口が減少する中、農業を続けるのは大変なこと多いが、農業には自分次第で物事を決められる魅力がある。だからこそ、意地とロマンで続けていきたいと柴田さんは語る。

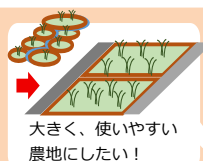


(株)アグリラボ 代表 柴田清志 さん

事業でつくる新たな地域の姿

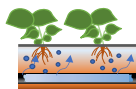
ほ場整備は、地域を理想に近づけるための手段の一つ！

地域の未来について具体的に地域住民皆で話し合い、地域の目指すところを決める。



大きく、使いやすい農地にしたい！

地下かんがいを導入し園芸作物に挑戦したい！



農業体験会をしたい！

加工品を売りたい！

地域の理想に近づけるために必要な整備が決まったら、事業申請、工事の実施へ。



整備された農地で

夢を実現！

